

THE Wheel TRENDS 01

GRAN SEEKER DMX MACCHINA TT

「ホイールトレンド」のコーナーは、寝ても覚めてもホイールの魅力から逃れられない貴人に贈る魔性の企画。今回も、各社がプライドを持って世に放つ力作の数々を、多角的かつハイビジュアルにてご紹介させていただきます。

AUDI TT 2019
 WHEEL WORK>>Gran Seeker DMX F:20×9J+38 R:20×10J+31 Finish:Black Cut Clear Plus
 TIRE NITTO>>NEO GEN F:225/30R20 R:245/30R20
 SUSPENSION KW>>Ver.1 Adjustable Coilover, T-DEMAND>>R:Toe Control Arm
 EXTERIOR RIEGER TUNING>>Front Splitter



■センターキャップだけでも写真のSeekerロゴのほかにWマークのシルバー/ブラック/レッドの3種類をオプションとするなど、リム、ピアス、ディスクのカラーに至るまで自分のイメージでオーダーできるのが、ワークのストロングポイント! ■中核をなすメッシュ部をクローズアップ。ブラックをまとう10交点のメッシュは、センターに向かって角度がついている。いわゆるコンケイブの手法を取り入れている。 ■グランシーカーDMXは19と20インチの設定。インサイドにメッシュを、アウトサイドにスポークを配するダブルデザインがクセになる、新時代のイメージリーダーだ。そして今回の新色・ブラックカットクリアプラスの配色も、ダブルデザインが一層引き立つよう計算されているのだ。 ■こちらはカットクリア仕上げとなった外周のスポーク部。スポークは風車のように傾きがデザインされているばかりでなく、メッシュ部とは逆のリム側に向かってコンケイブする技法を



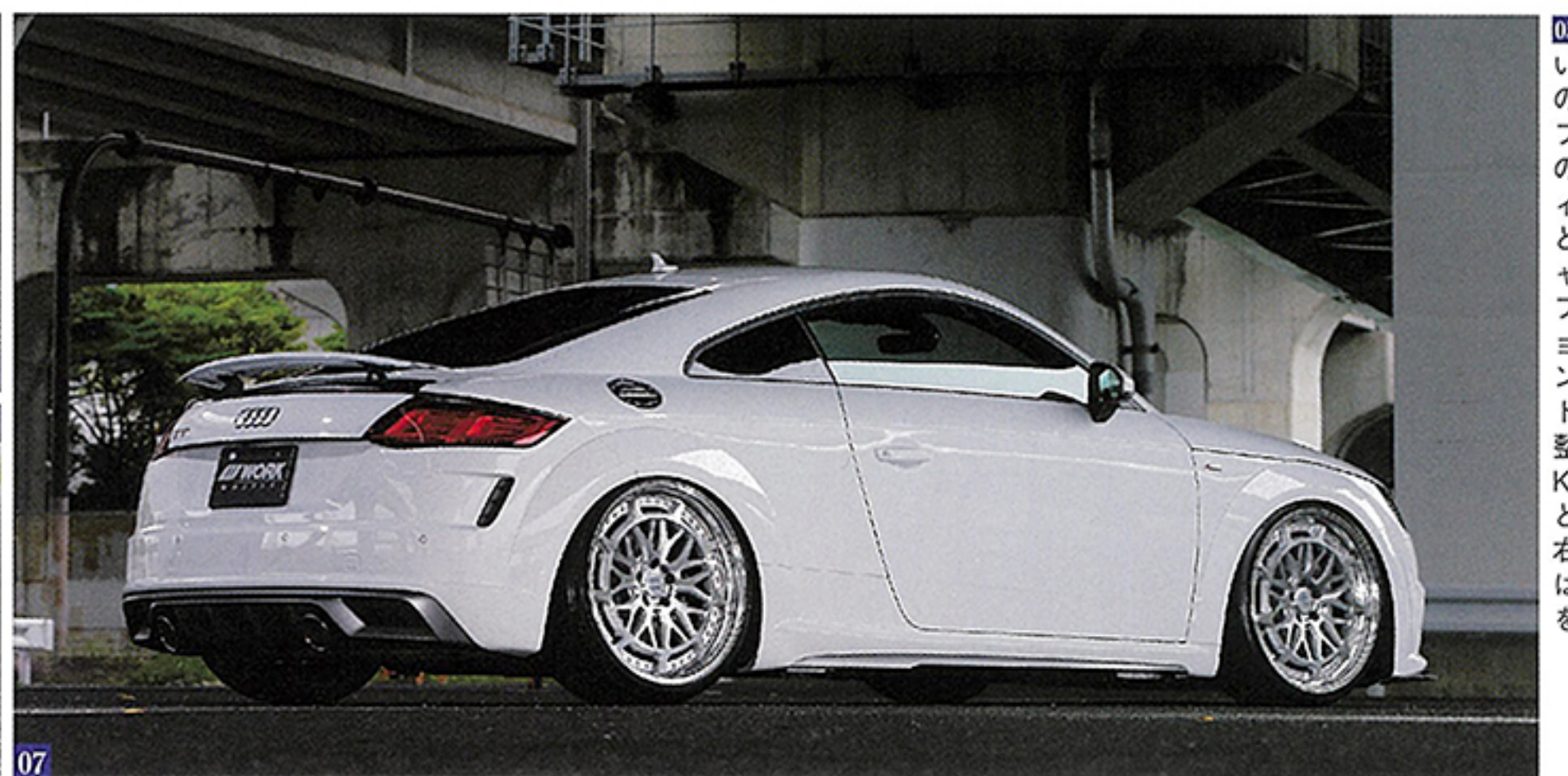
■グランシーカーDMX SIZE&SPEC

SIZE	HOLE/P.C.D.	RIM	PRICE (税別)
19		7.5~12.5J	7万7000~8万9000円
20	5H/100, 5H/114.3	7.5~13.0J	8万7000~10万円

●カラー/ブラックカットクリアプラス、カットクリア、ブラック(セミアオーダーカラー12色、カラリスム6色、カラリスムクリア5色、センターキャップ4種、リムアレンジ6色あり) *特殊P.C.D.(5H100~120.65)は+6000円

新色誕生。すなわち瀟酒^{しょうしゃ}

OWNER>>Mr.MIYAUCHI (宮内サン)
 CALL>>WORK (ワーク) 東日本コールセンターTEL:048-688-7555、西日本コールセンター TEL:06-6746-2859、
 中日本コールセンター TEL:052-777-4512 www.work-wheels.co.jp
 MACCHINA (マッキナ) TEL:072-446-3733 www.macchina-style.com
 PHOTO>>RYOTA-RAW SHIMIZU (清水良太郎/フォックスフックス)



■フロントマスクにエッジの効いたアクセントをつけてくれたのは、リーガーチューニングのフロントスプリッター。 ■リアのトールコントロールアームをティードイメント製と交換することで、ちょっとネガティブなキャンバー角を持つ、ヤンチャなフォルムを獲得。 ■KWバージョン1車高調がTTの車高をコントロールし、視覚的なスピード感を強めてくれる。減衰力調整機能のないバージョン1でも、KWらしい乗り味が楽しめることに疑いの余地なし。ちなみに右サイドのグランシーカーDMXは、カットクリアフィニッシュを採用。

独特のディスクデザインを従来色にて塗り分ける。このアレンジこそ成功への道

ワーク・グランシーカーDMXに、新色“ブラックカットクリアプラス”が加わった。かみ砕いて言えば、従来ラインナップされていたカラー、つまりはブラックとカットクリアを1つのホイールにミックスしたものだが、このミックスの具合が新たな世界観を生み出したのだから、ワークによる“新発明”の功績にはただならぬモノがある。

そもそもグランシーカーは、20世紀を彷彿とさせるクラシカルなデザインを現代風にアレンジすることを念頭に置く。音楽に例えるなら、過去の名曲をサンプリングして、現代の耳にも通用する別曲と

して発売するようなものだ。これを年初にリリースされたDMXに置き換えてみる。土台となる10交点メッシュの部分が過去からある“名曲”の部分で、織り重なるショート9スポークの部分が当世風の作曲部分。しかし、完成形の“映え”からはそんな計算は微塵も滲まず、単に「カッコいいから履きたい!」と思わせてくれるのだから、ワークのプロデューサーとしての手腕はグラミーアワードのレベルだ。

そこに追い討ちをかけるべく登場した新色は、10交点メッシュの部分をブラックに、9スポークの天面のみをカットクリアに彩色。生まれながらの

デザインの優位性を配色にまで落とし込み、別物とも言えるほどの境地へと誘ってくれるのだ。

しかも、ゴールはここにはあらず。ブラックカットクリアをスタート地点とし、さらにセミアオーダーカラーによるディスクのカラーチェンジ、リムとピアススポーツの仕様変更と、自分だけのDMXを創作できる可能性がまだまだ続くのだから、ホイールフェチにとって、これほど意欲を掻き立てられる作品はないはずだ。

新色の登場により、グランシーカーDMXの存在は、今以上強く眩しく高貴な光を放つ。